

前年度の成果と課題	教育目標	生命と人権を尊重する人間性豊かな児童の育成	総合評価	
コロナ禍においても、学校教育活動を出来る形を模索しながらすすめることができた。 一方で、地域と連携した教育活動をうまく進めることができない状況が続いていた。コロナウイルス感染症が5類になることで、地域との連携の仕方、開かれた学校を具現化する方法を考えることが重要である。	運営方針	できる・わかるを基盤に「子どもたちをつないでいく」授業・活動の展開	B	
	本年度の重点目標	(1)		自ら学び考える力を育てるとともに、基礎的・基本的な知識・技能・態度の定着をはかる教科指導。
		(2)		人権尊重の精神を内面的、主体的に自覚させ、基本的な生活習慣を身に付けさせ規範意識を培う道徳教育。
		(3)		一人一人の実態を把握し、児童理解の上に立ち、優しさ・思いやりと厳しさの調和のとれた特別支援教育。
		(4)		人権意識に目覚め、暮らしの中にある差別に気付き、なかまとともに解決していく意識と実践力を育てる人権教育。
		(5)		児童の個性を相互に認め合いそれを発揮し、温かく助け合い励まし合う人間関係の育成を図る生徒指導。
(6)	内部評価・学校関係者評価を重視し、教育活動の総括・点検・検討を通して、開かれた学校を具現化する学校評価。			

学校経営	評価の観点	評価	成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
教育目標 ・ 指導の重点	児童や地域の実態に即した学校教育目標が立てられている。	A	人権に重きを置いた目標は、児童の実態に即している。 教職員対象の評価アンケートの結果、自校の教育目標の理解に対する数値が高かった。 年間を通じて職員に呼びかけてきた。 西小タイムを活用し、授業時数を確保することができた。 評価アンケートの結果、教員側・児童側ともに主体的に学ぶ方向に変わってきた。	昨年度の課題を受けて、年間を通じて学校目標を意識した教育活動を進めていけるように呼びかけてきた。次年度は、職員間から、地域・保護者へと更に共有できる範囲を広げていきたい。	○縦割りで活動している事がとても良いと思います。他学年の友だちができたり、同学年を越えた人付き合いが経験できています。 ○先生方の雰囲気が出る相談しやすい。子どもたちも素直で明るい子が多いと感じます。 ○子どもたちのことをよく見て下さり丁寧に指導して下さっていると感じています。 ○校外内の危険箇所には様々な配慮を行い児童の安全を保っている。児童に社会のルールを守りマナーを高める指導を育てている。 ○児童一人ひとりを大切に、思いやりの心を育てる教育が行われている点が本校の良いところだと思います。 ○先生方が厳しくも優しくも接して下さっているのも、いつも有り難く感謝しております。温かく接して下さり学校生活がみんなにとってより良くなるよう見守ってくださいます。 ○トイレが綺麗になって良かったです。
	教育目標が教職員、保護者に理解されている。	B			
	教育目標が教育活動を進める上で生かされている。	B			
	年間授業数の確保と週時程の運営ができています。	B			
	自ら学び、自ら考える力を育て、主体的・創造的な学習態度が養われている。	B			
学校運営 ・ 組織	職員会議や研修で決定された内容が、学校運営や各学年・学級の教育活動に十分に反映されている。	A	会議・研修で決定した内容に基づいた教育活動を行うことができた。 月に一度、学年間で児童の様子を共有できる機会を設けた。 欠員が出たため、一時的に職員全体へ負荷がかかることとなった。 校内委員会・部会ともに計画的に開くことができた。 手続きが複雑ではあるが、適正に行うことができた。	今年度は、一時的に最大で3名の欠員が生じてしまい、複数の職員で欠員分をカバーする必要が生じた。そんな中でも計画的に部会を開くなど、円滑に学校教育活動を進められるように取り組むことができた。	
	各学年・学級間相互の連絡が円滑であるとともに、互いの特色や独自性も尊重した学校運営が行われている。	B			
	職員の適材適所を配慮して校務が分掌され、職員の意欲を引き出した学校運営が行われている。	B			
	校内の各委員会や部会等が、計画的に開かれ、有機的に機能している。	B			
施設・設備	予算の編成・執行の方法や手続きなどが適正かつ効率的に行われている。	B	ICT機器の整備も進み、有効に活用されている。特別教室の 使用後の整理整頓もすすんだ 定期的に安全点検を実施することができた。 読書活動の広がりが等も見られ、特別教室の活用が進んだ。	昨年度に引き続き、ICT機器や特別教室の活用がすすんだ。また、特別教室や準備室の整理整頓に務めることができた。	
	様々な教育活動の場において、施設・設備が有効に活用されている。	A			
	様々な学習の機会等に、図書室をはじめ特別教室などが有効に活用されている。	B			
教材・教具	教材・教具の整備、管理が行き届き、教育活動に効果的に活用されている。	B	教材・教具の管理を適切に行えた。一方で、古くなった 使えない教員類を増やしてきた 副教材等の精選を行い、有効に活用することができた。	環境整備を進め、教材を適切に整備できるようになった。 古くなった教具に代わる新しい教具を計画的に購入し	
	保護者負担の副教材や学習帳などの精選を行うとともに、日々の学習に有効に活用されている。	B			
家庭・地域社会との協力	地域や保護者、コミュニティからの意見を学年や分掌で共有し、改善に生かしている。	B	教職員間で密に連携を取ることができた。また、コミュニティでの話し合いを受けて教育活動を進めることができた。 様々な方法で学校の様子を家庭に伝えることができた。	西小コミュニティでの話し合いをもとに学校教育活動を進めることができた。次年度以降、継続的に進めていくことが必要。	
	様々な通信方法（学年・学級、保健、給食だより、電話等）を通して、学校の教育活動が家庭に伝わっている。	B			
学習指導	各教科の学習指導について、基礎基本を明確にしながら教材の精選、指導方法の工夫が行われている。	A	分析や研究内容の焦点化を行い、指導方法の向上等を図ることができた 一人1人端末末を活用して、児童の実態に合わせて手段を 選択できるような学習指導を行った 学校評価アンケートで、職員・児童ともに意識することが 出されてきた 概ね、各教科の目標に基づき計画的に学習指導を行うことができた。	今年度は新たに「話すこと・聞くこと」を校内研究主題に設定した。始まったばかりであるが、一年間の成長も見られた。 また、授業の振り返りに課題がある等、次年度に取り組むべきことも明確になってきた。	
	児童一人一人の個性や能力に応じた学習指導が、展開されている。	A			
	問題解決的な学習を組み立てたり、グループによる学習形態を用いたりするなど、指導方法の工夫が図られている。	B			
	各教科の目標に基づいた指導計画が作成され、それに沿った学習指導が展開されている。	B			

総合的な学習の時間では、児童・地域の実態を踏まえ、創意工夫を生かした活動が展開されている。

B

児童の実態を踏まえ、その学年らしさを出した活動内容を考え実行することができた。

令和六年度 学校評価総括表【Ⅱ】

香芝市立真美ヶ丘西小学校

教育活動	評価の観点	評価	成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
生徒指導 健康安全	生徒指導に対する職員間の共通理解が図られ、全体体制による実践が展開されている。	B	職員間での児童の様子についての共通理解は図れている。会議後には毎回、各学年からの全体共有の場をつくっていた。 基本的な生活習慣や集団生活における行動については児童によってのばらつきは見られる。教師からの働きかけ児童理解に基づいた教育相談を行うことができた。 スクールカウンセラーが校内委員会に入っていただけで、専門的な視点からの助言をいただき、保護者や児童の安全に対する意識は高まっているとは言えない。頭では分かっているが、実際の場では正しい行動をとれない。さまざまな場面を想定して訓練を行うことができた。訓練の中でマニュアル通りにいかない難しさも感じる。地域との連携・協力体制のもと計画的に行うことができた。	・校内のルールや問題点については指導にばらつきが見られる。教師が共通理解を図り、指導の徹底をしていく。そのためにも次年度は毎月の生徒指導部会を開き、細かな事象に対しての情報共有をしていく。 ・登下校やあいさつについては地域の方からよくなっているという声も聞かれた。大人側から子どもに声をかけていくことで、高学年に意識を持たせることが大切である。	●下校時の信号待ちの際、歩道からはみ出しそうになったり、ふざけている子を見かけることがあり危険だと感じています。学校外の場面ではありますが、一度安全について声かけ等していただくと安心です。 ●各先生が抱えている学校の問題を学校全体で共有・サポートできる体制づくりが大切だと思う。 ●部団の集合、出発時刻にきちんと集まらずに、ダラダラと出発しているのが気になる。 ●掃除がいきとどいていないように感じます。 ●挨拶ができていない子が多い。 ●保護者等の負担感に配慮しながら時代に即したPTA活動の在り方を検討していけると良いと思います。
	基本的な生活習慣や集団生活における行動のあり方(マナー)等を身につけるための指導が行われている。	B			
	児童理解に基づいた教育相談が行われている。	A			
	保護者や地域、関係機関との連携が図られている。	A			
	交通安全教室や避難訓練、防犯教室等を実施し、安全に対する児童の意識の向上を図るとともに、緊急時に対応する実践力が培われている。	B			
	不審者対応及び危機管理マニュアル等を作成し、職員間の共通理解のもとに、緊急時の対応に備えられている。	A			
毎月の交通安全全哨ができています。	A				
道徳教育	道徳教育の全体計画を作成し、活用している。	A	年間計画を見ながら、児童の実態に合わせて学習を進めることができた。 ペアやグループでの活動、全体での意見の共有などを適宜取り入れ話し合うことができた。 主に道徳ノートやワークシートを活用し、児童の考えや学習状況等を確認することができています。	本年度に引き続き、次年度も年間計画を作成し、児童の実態と照らし合わせながら道徳教育を進めていく。	
	道徳の授業の中で子どもたちが意見交流し、話し合うことができる。	A			
	ワークシートや感想、個人の学習状況のメモなど評価のための資料が蓄積されている。	A			
人権教育	人権や差別に対する正しい見方・考え方が培われている。	B	人権や差別に対する考え方や見方は学校活動全体を通して培われているが、いじめアンケートでは、「いじめは絶対だめ」を選ばない児童様々なる人権的な取り組みを各学年で児童の実態に応じて行った。授業づくりについて研修を行い、教師間で意見を出し、各学年、学年当初に計画した人権指導計画を基に取り組みを行った。実態に応じた取り組みができた。	本年度に引き続き、次年度も年間計画を作成し、児童の実態と照らし合わせながら人権教育を進めていく。児童の人権意識として、自分事として差別事象と向き合う姿勢を育てるために、教材作りを行っていき、人権感覚を養っていきたい。	
	自己や他者の生命や人権を大切に育てる指導が展開されている。	A			
	学年ごとの指導計画によって、系統的な指導が行われている。	A			
特別支援教育	特別支援教育（配慮を必要とする児童を含む）についての職員間の共通理解が、十分になされている。	A	子どもの実態交流や、職員会議時の児童の様子との交流時間を設けることで、共通理解をすることができた。 教員、保護者と面談を重ねて指導計画を立て、年に4回の面談を設け、目直しをすることで、きめ細かい指導が年間指導計画に基づき、計画的に取組を行うことができた。	本年度に引き続き、職員間の共通理解を密に行い、指導計画に基づき児童一人ひとりに応じた指導を進めていく。	
	児童一人一人の実態に配慮した指導計画に基づき、きめ細かい指導が行われている。	A			
特別活動	特別活動の全体計画及び各活動・学校行事の年間指導計画を作成し、活用している。	A	それぞれの学級で実態に応じた学級活動が行われていた。 縦割り活動や委員会等を通じて少しずつではあるが意欲的に児童が関わる姿が増えてきた。しかし、委員会の進め方等クラブによって差もあるが、児童たちは、興味を持って学年で協力し合い、活動を行っていた。ただ、学年の	概ね今年度に引き続き年間指導計画のもと、取組を進めていく。改良が必要なことは、部会でその都度話し合う。児童の主体的な態度がまだまだ弱いと、主体的に活動できるような手立てを考え、実行していければと思う。	
	児童の主体的で健全な生活態度を育成する学級活動が展開できている。	B			
	児童が意欲的に学校運営にかかわり、学校生活の充実と向上のための児童会活動が展開されている。	B			
	児童自らが楽しみ、異学年と共通の興味関心を高め合う主体性のあるクラブ活動が展開できている。	B			
保健体育 給食指導	日々の健康観察を通して、児童の様子が把握できている。	A	毎日、健康観察を行うことで各学級の児童の様子をできる限り把握できるようにしている。また、養護教諭や保健性教育に関して、学年の実態や周りの環境に応じて、内容や教材を選んで取り組んでいる。 各学級の実態に応じて、残食がなくなるよう取り組んでいる。しかし、残食はまだあるため、さらに取組を年間計画を作成し、授業を進めているが、気温等の天候に左右されることも多いので、年間計画通りに進められさまざまな行事に対して、児童は目標を立てて取り組んだり、達成感を感じながら取り組んでいる。	今年度、取組を進める中で、成果や今後のための課題を見つけることができた。残食の量が年々増えていることから、残食を減らすために児童が意欲的に取り組めるような取組を考えていく必要がある。また、年間計画については、再度検討し系統立てた学習をできるようにしていきたい。	
	各学年の年間指導計画に基づいた性教育が、年間を通して計画的に実践されている。	B			
	学年の発達段階や児童の実態に応じた給食指導が行われている。	A			
	体育科年間計画を作成し、活用している。	B			
	運動発表会等の体育的行事が、児童の心身の健全な発達を促すよう実施されている。	A			
校内・校外研修	校内研修の内容や計画が職員間で共通理解され、授業実践を通じた研修が行われている。	B	ブロック研や、年間3本の授業研を実施し、研究テーマに迫った研修を行うことができた。 個々で得た内容を日々の実践に生かすことはできているが、他の教職員に広く伝達できていないところがある。	研究テーマを意識し、学校としての一貫性をもって授業実践を通じた研修を進めていく。また、校外研修によって得たことを校内に伝達する。	
	校外研修によって得られた内容や成果が、日々の授業実践等に生かされている。	B			

※評価はA・B・C・Dの4段階